



1 「地域コミュニティの活性化」と「公民館」の役割と位置づけに関して

- 「地域コミュニティ活性化推進計画」の推進と実現における「公民館」の位置づけと役割について
「公民館が担う地域力」と「コミュニティの再生と向上に資する包括的な場」とする「公民館の所管移管」について
今後の公民館のありようと整備方針、「デジタル公民館」の誕生等も踏まえた公民館活動の新たなステージの構築について



公民館文化祭

2 「市立病院再整備事業」に関して

- 新型コロナウイルス感染症の法的位置づけの変更に伴う「コロナ後の病院経営」について
「応召義務」の整理並びに医療体制、入院調整の在り方、外来診療などの自己負担など市民への周知について
本市におけるマイナ保険証の現状と課題、市民への周知、母子健康手帳の電子化について
「第8次医療計画」を見据えた「市立病院経営強化プラン」の策定について
「市立病院再整備基本構想」の策定に伴う提言の具現化に向けた現時点での検討・調査、その内容について
独立法人化がもたらす市立病院経営の影響へのメリット・デメリットを含めた現時点での論議について
提言書における経営形態と効率化の項目における周辺病院との論議について
「地域包括ケアシステム」における市立病院の役割について
市立病院再整備における適地の選考と美大跡地について

公民館活動の新たなステージの構築について

問 DX化等も踏まえた公民館活動の新たなステージ構築についての考えを聞く。

答 本市では、コロナ禍において活動が制約を受けた中であっても、対面だけでなく、オンラインで活動が行えるよう各公民館にICT機器の整備を行ってきた。それらを基盤として、自宅からの各種会議への参加、eスポーツを通じた世代間交流などの取組が各公民館で行われ始めている。これまでも公民館活動が活発化するよう他都市の先進的な事例の紹介のほか、キャッシュレス決済など、デジタルの活用方法について周知するなどしており、今後も継続して支援していく。(教育長)

「市立病院の再整備事業」に関して

問 地域包括ケアシステムにおける市立病院の役割及び再整備における適地の選考について聞く。

答 住み慣れた地域で地域包括ケアシステムを構築し、在宅ケアの質を高めていくことは大変重要である。市立病院においては、急性期病院として、在宅療養を後方支援する役割となり、地域包括ケアシステムの一翼を担っていくものと考えている。今年度、基本構想と併せ、建て替え予定地についても検討する予定であり、再整備に当たっては、スピード感を持って取り組んでいく。(市長)

学校給食の無償化を求める意見書 6月定例月議会（議員別賛否一覧）

学校給食は、学校での食育を推進していくにあたって、必要不可欠であり、その意義は大きく教科学習と並んで学校教育の大きな柱となっている。加えて、朝食を摂らない子どもが増える中、家庭環境による栄養格差改善の面でも、学校給食の果たす役割は増している。一方、学校給食の経費負担については、実施に必要な施設及び設備に要する経費とその運営に要する経費は、設置者の負担と位置付けられているが、それ以外の経費は保護者の負担となっている。

小・中学校に通う子どもを持つ家庭では、教材費や被服費、就学旅行積立金など、様々な教育に係る費用を負担しているが、その中でも学校給食費は大きな割合を占めている。

このような中、多くの自治体において、独自に学校給食費の無償化が進められているが、学校給食の運営にかかる施設・設備の維持管理費や人件費に加えて、食材費までも自治体が負担することは、将来の財政運営を圧迫する恐れがある。日本全国平等な教育環境を確保することが求められている義務教育において、自治体間で地域格差が生じていることは重大な問題であり、財政支援や制度改正などは国の関与が不可欠である。よって、国におかれては、実施するよう強く要望する。

Table with columns for 議案番号, 件名, 本会議の結果, and a grid of議員別賛否 (賛成, 反対, 欠席, 欠).

※○：賛成、×：反対、退：退席、欠：欠席、議長は採決に加わらないため、「/」と表示しています。

玉野 道（「道」と書いて「まこと」と読みます。）

昭和24年6月金沢市玉針町に生まれる。米丸小学校、泉中学校、金沢市立工業高校機械科を卒業。北国新聞社制作局印刷部勤務を経て、現職。平成3年4月金沢市議会初当選以降、現在9期目。家族は妻・長女・次女・長男の5人。

自宅：〒921-8002 金沢市玉針3丁目123 / 事務所：〒921-8006 金沢市進和町28 TEL 076-291-1245 / FAX 076-292-4133 / MAIL tama@nsknet.or.jp



ホームページ



Facebook



令和5年6月議会 議会質問から「地域コミュニティの活性化」と「公民館」の役割と位置づけ

質問の1点目は、「地域コミュニティの活性化」と「公民館」の役割と位置づけに関して、です。

本市の「地域コミュニティ活性化推進計画」がこの3月に策定され、将来像として「地域に誇りと愛着を持ち、多様な主体が参加・協力してまちづくりに取り組む持続可能な地域コミュニティ」が謳われています。

計画の策定にあたっての町会長アンケート調査項目での「町会ではどのような組織や団体と連携して活動していますか」との設問に対して、公民館が最も高く、他組織との連携内容に関しては「まちの防災対策の推進」、「地域福祉の充実」が挙げられています。公民館は、一定区域の地域住民のために社会教育法第20条・21条の規定の下、「つどう」「まなぶ」「むすぶ」の基本的な役割として設置され、「地域住民の公共の館」として、全ての地域住民に開放され利用されるべき施設と位置づけられ、創設当初から各種事業を通して地域連帯意識を高め、地域社会づくりが推進されてきました。また、地域の拠点として、地域コミュニティの維持と活性化を図り、持続的に発展させる役割に関する公民館に寄せられる期待は極めて大きなものがあると言えます。本市の公民館は「金沢方式」と呼ばれる地域の自主性を尊重した全国的にも稀な特色ある運営の下、設置当初は概ね小学校校下の区域ごとに1公民館が設置され、生涯学習の拠点として、その役割を果たしつつ、地区社協が運営する地域サービスを併設するなど、各種地域団体との連携も保ちながら地域コミュニティの核となる活動が展開されていますが、運営における矛盾と課題が増幅していると思われる事案もあります。金沢方式による地域の主体性のある運営により「公民館」に人が集い、話し合う地域づくりの実践が、町会長アンケート調査の結果と分析でも地域活性化の原動力となっていることが実証されており、地域活動の多くが公民館を拠点として機能し、その地域づくり活動も地域住民の主体性に加え、公民館主事や役員など多くの支援があって、活動できている事実も明らかになっています。そこで、「地域コミュニティ活性化推進計画」の推進と実現への取組における、「公民館」の位置づけと役割について、お尋ねします。



1 高岡中学校校区の新神田・米丸両小学校校下における課題に関して

- ・35人学級の1年前倒し実施に伴う対応について
- ・米丸小学校における35人学級への対応と課題、早期の校舎増改築並びに建設への計画立案と実現について
- ・新神田・米丸両小学校校下における課題への取組について

2 金沢市中央卸売市場再整備計画に関して

- ・再整備基本計画（概要版）における「金沢の豊かな食と文化を支え北陸のハブ拠点となる一体的総合市場」とした将来像と市場病院施設再整備積立基金並びに市場事業者関係者から提出された12項目の要望書について
- ・中央卸売市場建設費の内容並びに発注仕様書の作成並びに債務負担とした事由、「ローリング計画」の策定期と具体の事項と対応について
- ・使用料に関する売上高使用料と面積割使用料の考え方、使用料調整過程における算出根拠と投資総額及びその内訳、一般会計からの出資金及び補助金、繰入金と総務省基準の変更の有無、運用可能な市場関係費、国費の導入等、使用料算出の前提となる数値算出の考え方並びに公表時期に、プロジェクトチーム編成と「市場再整備室」の陣容と位置づけについて
- ・不動産業務の市場管理事務所からの脱却と新たな公営企業経営と位置づける経営方針並びに経営計画の策定、卸売市場存続への卸売市場関係事業者の財務指標調査の分析と評価、再整備市場への参加意向調査、市場関係者からの要望書の12項目目の対応



米丸ランドゴルフ大会



米丸ランドゴルフ春季大会



米丸消防団 操法大会に向けて



米丸っ子900人超えの運動会



2023年石川県ポデビルフィットネス選手権大会



米丸校下水防訓練



金沢市消防団ポンプ車操法大会



新神田校下防災訓練



米丸消防団活動出前講座(新神田小学校)



米丸校下ソフトバレーボール大会



第10回石川そるばんチャレンジカップ



健康づくりフェア



松本薫杯 第54回金沢少年少女柔道大会



長町武家屋敷数掛事業要望 県造園業協同組合



松本薫杯 第54回金沢少年少女柔道大会



金沢自然冒険隊「蛙の会」要望活動



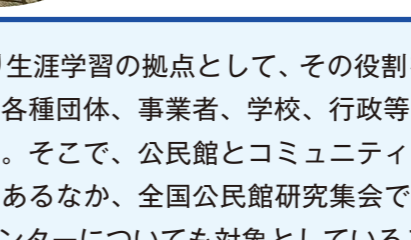
長町武家屋敷数掛事業要望活動



金沢市立工業高等学校 令和5年度同窓会総会



金沢市柔道協会市長要望



金沢港整備促進期成同盟会総会

金沢港整備促進期成同盟会総会

米丸小学校における35人学級の対応と課題

問 米丸小学校における35人学級への対応と課題、早期の校舎増改築、新校舎建設への計画立案と取組について聞く。

答 米丸小学校は、児童数が増加傾向にあり、平成31年度に教室不足の解消のため、増築及び改修を行い、通常学級として普通教室31室と特別支援教室3室を確保しており、35人学級の前倒し実施にも対応できる。また、増改築や新校舎の建設については、現校舎の最も古い棟が昭和44年の建築であり、耐用年数を踏まえると、しかるべき時期に増築部分の活用も含めた改築手法について、検討を始めたい。(教育長)

中央卸売市場再整備後の使用料と再整備事業の投資総額について

問 使用料調整経緯における算出根拠と再整備事業の投資総額及びその内訳について聞く。

答 再整備内容を検討する上で、市場内事業者に対し、他市場の建設単価を根拠とした試算による使用料を提示しながら協議を行ってきた。引き続き、市場関係者からの要望を踏まえ、使用料の低減に向けて、市場内事業者と協議を行っていく。また、投資総額については、先般策定した基本計画を踏まえ、現時点の概算で300億円を超えるものと見込んでおり、今後、基本設計の策定を通じて、施設規模や整備費用などを精査していく。(市長)

「地域コミュニティ活性化推進計画」の推進と実現における「公民館」の位置づけと役割

地域コミュニティの衰退が社会全体の課題となる中、平成30年の中央教育審議会の「人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について」の答申では、「公民館に求められる役割として、地域の学習拠点としての役割、地域コミュニティの維持と持続的な発展を推進するセンター的役割、さらに地域の防災拠点となること」などを含めた5点の振興方策への期待が示されています。本来、公民館は地域住民に近い位置づけで、地域住民が抱える課題研究や学習活動を通して社会福祉の増進に寄与する場所です。ただ、近年、首長部局において、まちづくりに関する部署が設けられるなか、これらとの整合性や、令和元年度の「第9次地方分権一括法」による、「特定社会教育機関」への改編に伴い、全国公民館研究集会でも指定管理者制度の問題点や地域委託に関する事項が論議されています。また、社会教育法の改正や中央教育審議会の議論を踏まえた制度的な変化に伴い、社会教育の現場でも変革が求められ、「公民館」を取巻く環境も、人口減少、少子高齢の進展に伴いデジタル技術を使った生涯学習など「デジタル公民館」と呼ばれるDX化等による、オンラインでの健康相談やオンラインゲームを通じた世代間交流、各種証明書の発行など、健康寿命の延伸や新たな地域交流、地域経済の活性化につなげる活動が推進されています。この様に社会の大きな変化に伴い、公民館の多種多様な課題への対応の一方で、DX化など新たな可能性の拡がりもあって、これまでの地域づくりの拠点施設として利用される「公民館」のあり方に加え、従前の公民館機能の枠を超えた課題にも取り組まなければならない時代になったと言えます。この事は、法律で定められた公民館の教育委員会所管の社会教育施設であるとの位置づけのみならず、まちづくり、観光、産業、防災などとの他分野と一体的に地域創生を図る視点から、福祉の向上と地域コミュニティが主体を持って地域特性を活かした取組の仕組み「コミュニティビジョン」が政策課題として浮上し、地域力の再生を図るために「公民館」がコミュニティセンターとしての役割が重視されているものであり、その必要性は組織的にも首長部局所管に転換する論議が多くの自治体で交わされていることから明らかです。

「公民館」は、長年にわたり生涯学習の拠点として、その役割を果たしてきましたが、その主体となる地域の「地域力」を高め培うためには、町会や各種団体、事業者、学校、行政等と地域内の多様な主体の「協働」による課題解決型の住民自治の仕組みが不可欠です。そこで、公民館とコミュニティセンターは「地域住民の交流場所という点では似ており違いは殆どない」との意見もあるなか、全国公民館研究集会での論議や全国公民館連合会における各コンクール賞が公民館に加え、コミュニティセンターについても対象としていることや、市民協働推進課に加え、新たに「地域力再生課」を設置し、まちの魅力や活力を図ろうとする本市の「公民館が担う地域力」と「コミュニティの再生と向上に資する包括的な場」とするためには公民館がこれまで同様に教育委員会の所管で良いのでしょうか、「公民館の所管移管」に対するお考えを市長並びに教育長にお尋ねします。「公民館」に求められる活動や役割については、地域により違いがありますが、これは地域の長い歴史や文化、慣習に根差しているもので、公民館の実務にも違いがあり、公民館主事や役職員の能力や依存度にも地域格差や温度差が生じているにもかかわらず、行政においても各公民館に業務を依頼する事案が増していると思います。先述した様に本市の公民館は概ね1小学校校下に1公民館が設置され、特色ある運営方式で活動が展開されてきましたが、3校下1公民館や2校下1公民館などの事案に、近年の小学校の統廃合等による金沢方式のあり様と維持への危惧とともに、校下と校区の定義づけが曖昧になっている様に思えます。四十万公民館建設や本市中央地区における事例などからも、学校の統廃合等により生じている矛盾と整理すべき課題とともに、それ等に対する様々な声も聞こえてきます。そこで、公民館運営を始め地域のコミュニティと地域力の礎であった金沢方式に基づく各種施策が随所で綻びが出始めているなか、昨年度から「金沢方式」の見直しに向けた検討がすすめられていると側聞していますが、今日的な課題をどの様にとらえているのでしょうか、見直しの方向性とスケジュールと併せお伺いし、加えて公民館とコミュニティセンターに対する国の財政支援が縦割りになっている現状も踏まえ、今後の公民館のあり様と整備方針、DX化等も踏まえた公民館活動の新たなステージと地域力の構築へのお考えを併せて、お尋ねします。